

障害のある人のゆたかな地域生活の実現を!

よさのうみ福祉会広報誌

きょうと福祉人材
育成認証制度



福祉よさのうみ

第99号

2017(平成29)年9月1日

発行 ■ 社会福祉法人 よさのうみ福祉会

URL <http://www.yosanoumi-fukushikai.or.jp>

〒629-2314 京都府与謝郡与謝野町字岩屋600-6

TEL 050(3532)0601 FAX 0772(43)0606

丹後中学校吹奏楽部からの贈りもの

ゆうゆう作業所では、月に一度「地域の皆さんとの交流」や「文化や美術・芸術にふれあう」ための取り組みを行っています。

初めて丹後中学校の吹奏楽部に演奏をお願いしたところ、夏休み曲前演奏会の一環として快くお引き受けいただき弥栄地域公民館で7月27日に音楽会が開催されることとなりました。

せっかくの機会なので当法人の他の事業所にも声をかけたところ、峰山共同作業所、みねやま作業所、

ろむから120名を超える観客が集まりました。

音楽会では中学生が自分たちで選曲した「恋」「夏色」など10曲あまりが演奏されました。中学生とは思えない力強く、美しい音色に、仲間からも「情熱大陸」に感動した!」「もつと聴きたかった!」と称賛の声があふれました。

最後に事業所を代表して、ゆうゆう作業所の仲間から花束とお礼の品をお渡ししました。

はじめはゆうゆう作業所単独の企画でしたが、事業所を超えて大きな輪が広がり、京丹後の仲間たちと地域の中学生との音楽を通じた交流の場となったことは、非常に価値のあることだったと感じています。

【ゆうゆう作業所主任 品川 稔】



土井さんの話に感謝 桑飼小学校人権学習会

夢織りの郷つむぎ 管理者 尾上真由美



夢織りの郷では、地域の小学校の人権学習で話をさせてもらっています。6月30日には、桑飼小学校の全校生徒に入所支援施設「いきいき」の利用者土井美佐子さんと一緒に話をしました。土井さんは子供の頃高熱のため障害を負いました。上肢、下肢に障害があり、言葉では話ができません「トーキングエイド」という福祉器具を利用してコミュニケーションをとっています。10年前自分の生い立ちや願いをつづった「私」という自分史をパソコンで作成されました。

私の夢!!

最後に「これからの夢は何ですか」と聞かれると「飛行機に乗りたい」とのこと。50代半ばで自分の思うように体が動かず体力的にもしんどい思いをすることが多い土井さんですが、「飛行機にのりた」という大きな夢を持って生きていこうとしている姿は、子供たちの目に、とても逞しく映り励まされたことと思います。

皆さんの感想に泣泣...

後日全校生徒からの感想文を届けてくださいました。土井さんにも手渡し職員に読んでもらいましたが、二人目の感想文から号泣され、最後の生徒に行くまでには何度も何度も感激して涙を流されました。土井さんの思いや願いは、子供たちの心にストリートに伝わったようです。

土井さんは年々体の機能が低下し、職員は学習会は今年最後かと話していました。しかし、土井さんの思いや願いを真剣に聞いてくれる子供たち、感激している土井さんの姿を見ると、まだまだやれる、来年もどこかで話をし、多くの人に、土井さんの思いや願いを伝えていくことができればと思っています。

桑飼小学校生徒さんの感想

「がんばってくらしてください。こえはでないけど がんばってください。しごとを がんばってください。みんなとどこかにいきたいんですよ。そのきもちわかりました。ぼくはいろいろできるからたすけたいです。だからがんばってくらしてください。1年生」

「今日はお忙しい中来てくださってありがとうございます。土井



「6年生」

市場小学校交流会

みんなで楽しい時間を...

野田川共同作業所が昭和58年開設当初から、山田小学校と交流していた「七夕交流会」。今年から実施されなくなりました。また夢織りの郷開設後毎年交流していた岩屋小学校との交流会も、統合によりなくなり残念に思っていました。その中で市場小学校からぜひ交流会をしたいと、嬉しい申し出をうけ、7月10日に実現しました。



当日は、校歌で出迎えて頂き、全校生徒から歌の贈り物、夢織りの郷からの歌のお返し。はじめての交流会は、先生も生徒もちよっと緊張気味で始まりました。



後半は5年生の生徒と一緒にゲームや工作の取り組みです。生徒の皆さんが事前に「どうやってらみんなが楽しめるのか」相談し準備していただきました。子供たちの真剣な表情から、いい交流会にしようという思いが伝わってきます。

ゲームは人数集めゲーム。大きな声で「あと一人誰か来て」と人を呼ぶ声飛び交います。グループを作る中で、生徒と利用者の関係も少しずつ近くなっていくようです。工作は生徒が作ってくれたチューブプレーンに好きなシールを貼りみんなで飛ばしっこをします。

自己紹介をしたり、好きな色を選んでシールと一緒に貼ったり、あちこちで仲良く話をする姿や、作業をする場面が見られました。はじめはどう声をかけていいかわからず戸惑っていた子供たちでしたが、一緒に作業することで会話が広がり、笑い声も聞かれました。最後は、5年生の鼓笛演奏を聞かせていただき交流会を終了しました。



地域づくりとして...

与謝野町内の小学校、中学校では野田川共同作業所開設当初から人権学習や実習に取り組んでもらっています。小学校4〜6年生が、初めて「夢織りの郷」を訪れ、施設見学と作業班で実習。実習後の各代表者との振り返りの時間では、生徒から「何が楽しいですか」の質問に、「仕事です」と答える利用者。仕事は、豆よりや下請けなど単純作業。生徒たちにとっては、決して楽しい作業とは言えない作業ですが、時間一杯黙々とこなす利用者の姿に、小学生は「すごいなあ」と感心しています。何をしたいかわからず困っている生徒には、「どうしたん」と優しく声をかけてくれる利用者。

さんがせんたくものなどのお仕事ができるなんてしらなかつたです。土井さんも子どもころからつらい思いをして生きてきたのが私もよくわかります。でもスタッフの方にささえてもらったりしながらお仕事をされているのがこんなにすごいことなんだと知りました。土井さんはとても強いですね。私も土井さんのように強くなりたいです。4年生」

「土井さんから学んだことはたくさんあります。例えば障害があつてくるしい時もあつたと思います。でもあきらめずに生きてくる中にも楽しいこと、仲間が支えてくれることを学びました。またしっかりと夢を持つことも学んだし、今という時を楽しんでいく事も話の中で学びました。わたしには、『夢』と思える夢がありません。これからはしっかりと『夢』をもちあきらめずに生きる事を大切に、家族や仲間とともに楽しんで生きていきたいと思いました。私もし障害があつてしまつても土井さんのように自分がしたいことをしていったり、いろいろ体験したりお互い支え合いながら生きていきたいなと思ひました。6年生」

「困っている人がいると助けてあげたい」利用者の思いが子供たちに伝わっていきます。利用者の一生懸命働く姿や優しさを、子供ならではの感性で感じ取った感覚は、大きくなって心に残り続けるようです。

また、毎年実習に来ていただく京都府立看護学校の学生に「今まで障害のある人と関わったことはありますか」と聞くと、ほとんどの学生の答えは「今回初めてです」その中で、与謝野町出身の学生は小学校、中学校の実習経験を話してくれました。全国的にもこれらの交流はとても貴重な取り組みのようです。



一年を通しての物品販売の取組み

みやづ作業所
支援員 牛田 浩二

～みんながやりがいのある仕事を目標して～

【みんなの班は物品販売で、頑張っています】

みやづ作業所どんぐり班は生活介護班で8名の方が所属しています。年齢も20歳～65歳と幅広く、重度知的障害や身体障害の方もおられます。

働くことだけでなく、機能維持や生活を豊かにすることも大切な課題なので、午前中は作業し、午後からは体操や余暇などの特別教育活動を行っています。作業は主に下請け(弁当箱やシャワーキャップ作り)、EMボカシ作り、野菜作りなどです。



中でも工賃を上げるために頑張っているのが物品販売です。春夏秋冬と1年間を通して、作業所の仲間、家族と職員を対象に行っています。全ての工程に仲間が関わって行うため、販路は小さいですが、仕事と給料の結びつきが最も実感できる仕事です。

【ため、販売開始の準備】

今年はこのどんな商品を販売しようかな?毎回自分たちで商品を決めます。「夏は冷たくてさっぱりした方がいいなあ」と冷たい羊羹やそうめんを選び、「冬は暖かい食べ物売れるのかなあ」「バレンタインもあるし」など、季節を考えた意見を出し合います。自分の意見が反映されたことが分かりやすく、作業の見通しも持ちやすい仕事です。

商品が決まるとパソコンの得意な仲間が入力し、注文書を作ります。注文書を入れる封筒作りも仲間が楽しみにしている作業です。名前を書いた紙を封筒に糊で貼るのですが、糊が手につき、紙が手にくっついた姿を見て笑いあいが



ら和気あいあいと作業します。注文が集まるといよいよ仕分けの作業です。注文した方の名前と商品名を読み上げ、商品を探して袋詰めをします。仕分けの時はまるで宝探しのように、商品を見つけると嬉しそうに声を上げ手に取ります。その姿はやる気に溢れ表情もいきいきしています。

こうして用意した商品を届け、お客さんに『ありがとう』『またお願いね』と言われる時がこの作業の中で最も嬉しい瞬間です。夏物

【作業を通して得られるもの】

こうした作業を通して仲間自身が見通しを持ち楽しみながら働けることが重要だと考えています。

また、注文書を配布することや地域のお菓子屋さんから商品を仕入れることで仲間と地域のつながりができる貴重な機会でもありません。

これからも地域とのつながりを意識し、仲間の意見を積極的に取り入れながら、取り組んでいきたいと思えます。

与謝野町精神障害者等サロン運営事業

「サロン」や「パンジーの会」

～それぞれの目的に合わせて利用される場所として～



「与謝野町精神障害者等サロン運営事業」は、与謝野町地域自立支援協議会における熱心な協議を経て、2009年4月に始まりました。

外に出にくい、人との交流の少ない方々へ居場所を提供し、社会参加を促し、生活能力を向上させることがねらいです。事業内容は「サロン」とグループワーク「こぱんじー」です。今年度のサロン、グループワークの利用登録者は合わせて20人で、精神障害のある方を中心に身体、知的の障害のある方の

利用もあります。

結職員2名に加え、こころの健康推進員さん、サロン協力員さんの協力も得て、電話連絡や個別訪問などをして利用者との関係作りを進め必要な個別支援を行っています。

【サロンの利用者の声】

「サロンはええ！来て楽しい。毎週楽しみます」「昼ごはんのメニューが楽しい」「ご飯が美味しいです」「癒されます」「人と話せて楽しい」「送迎があつてありがたい」「来れる時、来たい時に来れるのがよい」「すまいるの販売で」服が安く買えるので助かります」「カラオケやクリスマス会などもあつていい」

【こころの健康推進員さんの声】

「来るのが楽しみ、1週間のリズムになつている」「これも生きがい。作った野菜を食べてもらえるのがうれしい」

のんびりゆったりおしゃべりを楽しむ「サロン」

ふれあいセンターや野田川中央



公民館を会場として、出向くことが難しい方も安心してサロンに参加ができるよう送迎を行い、1食150円で食事提供を行っています。推進員さんが畑で作った野菜をいただくことも多く、安くて栄養満点の手料理を楽しんでもらっています。利用者の過ごし方はそれぞれで、音楽を聴いたり、おしゃべりを楽しんだり、食後にみんなですトランプゲームをしたりしています。日頃のストレスを発散し、リフレッシュすることで日常の仕事や生活への張りにつながってられます。

みんなで楽しむ

「こころのパンジーの会」

利用者同士が親睦を深め、協力しあうことを目的とし、お花見や紅葉狩りなど季節を楽しむ外出を中心に取り組んでいます。なかなか一人では出かけにくい方もみんなで楽しくわいわいとお出かけを満喫しています。外出しにくい季節には、自分たちで作った季節のご飯をみんなで食べます。これら取り組みにより活動範囲が広がり、社会参加への意欲に繋がっています。



皆さんの笑顔に励まされ、これからもサロン活動に力を入れて行きたいと思えます。

「親の心」

峰山共同作業所親の会

畑中景子

「人間の発達には無限の可能性がある。」

「三歳の精神発達とまっぴいるように見える人も、その三歳という発達段階の中身が無限に豊かに充実していく生きかたがあるのです。生涯かかってそれを充実させていく値打ちが充分にあるのです。そういうことが可能になるような制度や体制や技術をととのえなければならぬ。」50年も前に糸賀一雄氏が言われました。

私はこの言葉に出会うまでは、「這えば立て、立てば歩めの親心」という縦軸の成長の視点しか持てずにいました。だから障害という現実を突き付けられた時、心は闇と化しました。

人間には豊かに生きる力や内面的な深まり、個々人の生きがいという横軸の発達が有り、それには無限の可能性がありという新しい視点は、親の心にも子

のココロにも光を与えてくれるものでした。

障害のあるなしや親子の違いなどに関わらず全ての人達が心豊かに生きることが出来る横軸の発達の為の教育、社会制度がこれからますます必要になってきていると思います。

障害に向き合うことは大変ですが、娘は働く場と沢山の人の支援をいただきながら、ココロを育てようとしています。親の私もまた娘と共に心の成長に励んでいきたいと思えます。無限の発達を信じて…



みんなの「できたーが、うっばー」を増やしたい

自分の人生で印象に残っている人や影響を与えてくれた人はいいますか？この仕事では仲間の生活全般の支援を通して、人の人生に大きく関わっている。この責任とやりがい強く感じます。逆に仲間から色々な人生のヒントを教わっているなあと思うことが年々増えてきているように思います。

職員として働き始めた当初、支援の意味や意図を深く考えていなくて、その時に関わった仲間「できたーね」と話かけたとき「佐々木さんが言った様にやっただけ」。これを聞いた時に恥ずかしくて情けなく、申し訳なくて。「これは支援じゃない。僕が答えを作って導いてるだけや」と。その一言が今の僕のスタートになったかなあと思っています。

ウレ〜随想



みねやま作業所 主任 佐々木 明雅

「できたーが、うっばー」を増やしたい。皆さん、自分の立ち位置や仲間との距離感を常に意識しておくことは大事かなと僕なりに思っています。仲間の「できたー」は自分にとっても「できたー」になるし、他の職員が仲間の「できたー」に気付いた時は、僕も嬉しいです。皆「できたー」を増やしたいなあ！
僕の理想の職員像は、「気づいたらなぜか横にいる面白い人」。いつでも、どこでも、誰にでも「佐々木がおいたら大丈夫や」という安心と笑いが与えられる職員、そんな人になりたいです！

次回は

野田川共同作業所

主任 菅谷千恵美です。

「見て・感じて・生かす」

すまいる支援員

水口靖恵



7月28日、暑さ真つ盛りの中、「社会福祉法人かがやき神戸」へ施設見学に行ってきました。ねらいは、新規事業所を見学することにより各事業所が今後の事業展開の参考にする、利用者支援に活かすということでした。6法人から計31名の職員・管理者の参加となりました。

かがやき神戸では、多くの事業を展開しており、身近な所では弁当事業を行っています。地域の方々に注文を受ける弁当だけではなく利用者も弁当を食べるといふ給食を展開していました。仕事で作った弁当を自分たちも給食で食べ



ることで作業にも一生懸命さが増すとのことでした。

また、他に類をみないところでは「土曜日の天使たち」と題して利用者の方々がクラウンにふんしてパフォーマンスを行うという事業です。
実際、私も以前、イベントでクラウンのパフォーマンスを拝見しました。クラウンに成りきり周りを巻き込む様子は素晴らしいです。現在イベントに引つ張りだこと聞きました。
見学では地道な発声練習に取り組み姿にプロ意識の高さを感じました。



「寄付御礼」

みなさまからの「寄付、誠にありがとうございます。」

2017年6月16日〜8月8日

(順不同・敬称略)

- 藤原さゆり
- 日下部みはる
- 山口郁子
- 青木一博
- 尾上真由美

峰山共同作業所みねやま作業所
ゆうゆう作業所を助ける会

会長 松村繁

NPO法人くまっこクラブふくい

8月9日以降の寄付者は次号に掲載します。



編集後記

▼今年も例年以上に暑さの厳しい夏でした。丹後の地域が全国一の暑さを記録した日もあったほどで、年々厳しさを増す猛暑対策に苦慮する日々です。▼生まれ育った街の良さを世の中に発信し、多くの人に生れ故郷に遊びに来てもらいたい！そんな思いから数年前より、地元映像を撮ってインターネットに投稿するという活動を行っています。そんな中で「あの映像を見たよ。」や、「先日新聞に出てたね。頑張ってる。」といった声を頂きます。趣味が高じて始めた事ですが、少しは地元の役に立てたのかなと思いつつながら恥ずかしい部分もあつたり…▼地元を広める活動を仲間内で話し合う中で、「自分たちが地元のことをよく知らない」という結論に至ったことがありました。人に伝えるためには、自身がその事をよく知っていないといけないという最重要点を念頭に置いて、この福祉よさのうみを通じて福祉会のことを皆さんにしっかり伝えていけるように頑張ります。(せ)



クッキー・かりんとう・パウンドケーキ・せんべい etc. 各事業所自慢の商品を詰合せたオリジナルギフトも承ります。

クリエイトショップくりくりは京丹後市にある4つの法人に所属する事業所の商品が並ぶ私たち作業所のお店です。それぞれの作業所でお店をつくったオリジナル商品を、食品から雑貨に至るまで販売しています。場所はマインの2階、ソフトバンクさんの向かい側です。2013年にオープンしたお店は、お陰様で4周年を迎えることができました。仲間たちが作り出す、温もりたっぷりの、美味しさたっぷりの商品の良さをこの機会に是非、味わって下さい。皆様のご来店、心よりお待ちしております。

クリエイトショップくりくり4周年を迎えて

京丹後市障害者事業所製品販売連絡協議会 事務局長 山本優子

4周年感謝祭

4周年イベントお楽しみ抽選会!

日時 **9月16日(土)・17日(日)**
午前10:00~午後8:00

500円お買い上げごとに1回抽選!

商品券・ぼんべにえ・焼き菓子詰め合わせが当たる!! (商品がなくなり次第終了します)ほかに、イベント限定特別販売として、四つ葉ハウス天然酵母手作りパン、ゆうゆう作業所のMIXせんべい(数量限定品)などを販売します。

また、好みのさをり生地を選んでつくる「オーダーメイドさをりバッグ、小物」の注文を承ります!!



【お問い合わせ先】
クリエイトショップくりくり
〒627-0005
京都府京丹後市峰山町新町 1606-1
ショッピングセンターマイン2F
TEL & FAX 0772-62-4888
営業時間 / 午前 10時~午後 8時

カフェショップ花鈴 1周年を迎えて

地域の皆さんから愛される店をめざして



昨年6月15日。期待と不安を抱えボランティアの方々をはじめ、地域の皆さんに見守られながらオープンして1年が経ちました。1カ月に一度は仲間の顔を見に来て下さる方、ここはどんな所だろう?と来られる方、着物を楽しんでおられる方など様々です。

現在、工房では形になればいいなとボランティアの方や地域の方の力を借りながら小物作りやリメイク教室を少しずつ取り組んでいます。

仲間からはもっとお客様と話したいとの声を聞

きます。仲間それぞれの花鈴への携わり方を見つけ、意欲を引き出す実践を考えています。

7月より日曜日も営業を始めました。着物に興味を持ち来店される方が多く「コレはこうしたら素敵。使えそう!」と会話が弾み楽しい時間を過ごされています。仲間の作業場だけでなく地域の皆さんの憩いの場になることを望んでいます。

ぜひ、みなさんお店を覗いてみてください!

OPEN 10:00 CLOSE 15:00
☎ 0772-46-2110
定休日 / 土・祝
カフェショップ花鈴
京都府与謝郡与謝野町岩滝 1255

京都府ホームページ
京都ちーびす(京都地域カピジネス)活動ブログに紹介されました。
<http://kyoto-chii.biz>

